

## 誰にでもすぐにはできる特別支援教育 ～「伝わっていますか??」～



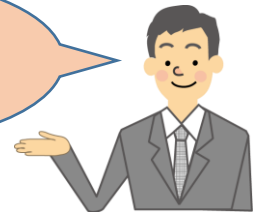
どこに並ぶの?  
とりあえず友達がいるほうに  
行ってみよう…。

きちんと並びましょう!!



これってどれ?  
たくさんあるんだけど…。

これをちゃんと  
片付けなさい!!



(受信)

(発信)

発達につまづきがある子供たちとのかわりにおいては、コミュニケーションが課題としてあげられることが多くあります。コミュニケーションを「受信」と「発信」に分けて考えると、受信する側(子供)の課題が取り上げられがちですが、発信する側(大人)に課題はないのでしょうか?

今回は、発信する側(大人)に視点を当てて、日ごろの伝え方、指示の出し方について取り上げます。普段から少し意識するだけで、子供たちの行動も変わっていくかもしれませんね。

### 1 伝わりづらい子供たち

<どうして伝わりにくいのでしょうか??>



- ① 「～したら～になるだろう」と考えることが苦手なんだよなあ。  
→想像することの苦手さ
- ② 聞いたことをその場で覚えることが難しいんだよなあ。すぐに忘れちゃうんだよなあ。  
→聴覚的短期記憶の苦手さ
- ③ 話をしている人をずっと見て聞いているのは苦手なんだよなあ。  
→注意維持の苦手さ

この他にも、言われている言葉をイメージする力が弱かったり、獲得してきた語彙が少なかったりする  
こと等も考えられます。様々な背景要因がありますが、共通して考えられる配慮は、「具体的に」「期待する行動」  
を伝えることだと考えます。

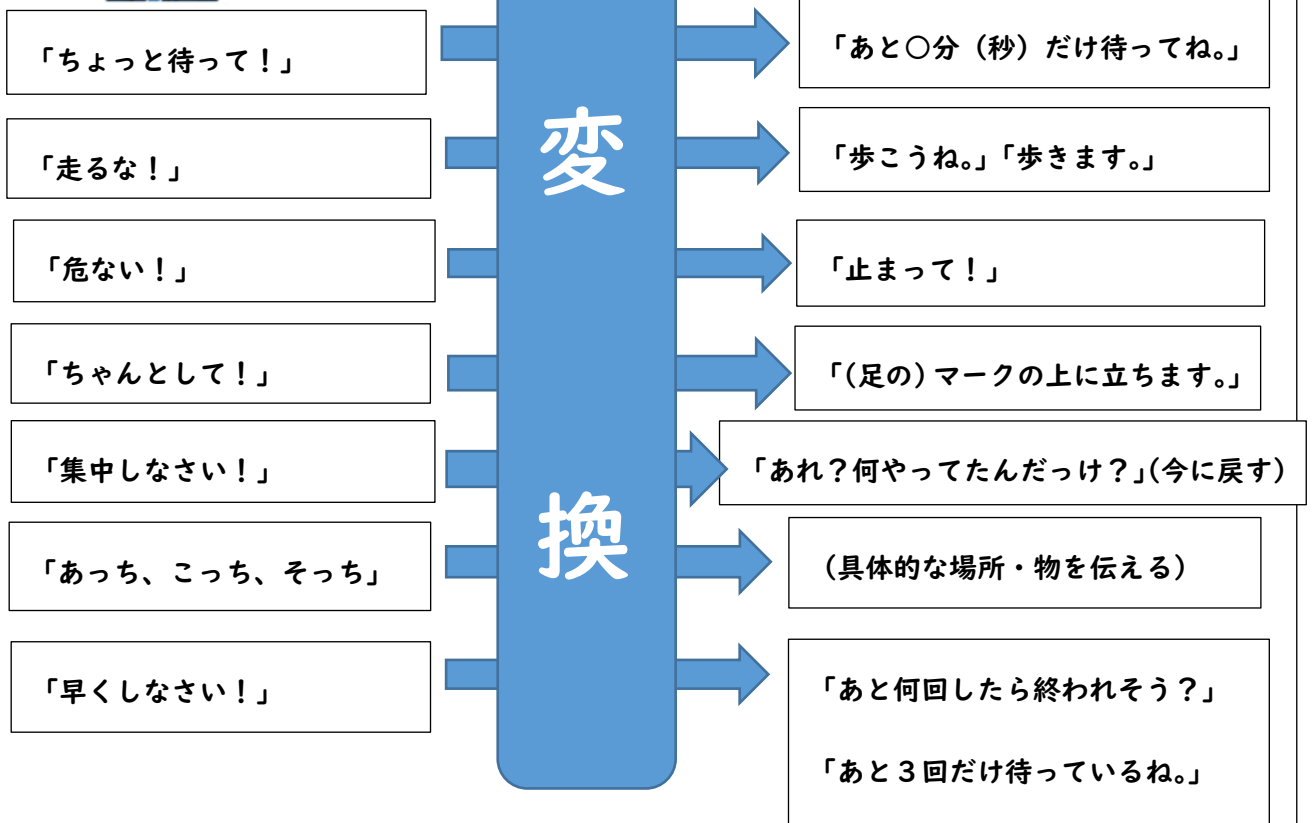
そこで…

## 2 伝え方のポイント (Let's 声掛け変換!)

～出典・発達障害 アイデア支援ツールと楽々工夫 note@FB <https://www.facebook.com/ideatoolsnote> をもとに～



< 普段使っている言葉を言い換えてみましょう!! >



このような声掛け変換の他に、注意が逸れやすい場合には、指示を出す際に①注意を大人に十分に向けさせてから話をする、②話をする数を先に伝えること(「これから大事なことを3つ言います。」等)、③キーワードを板書し(【視覚化】)それを指さしながら話すこと等も考えられます。

これらは、発達障がいと言われる子供たちだけではなく、指導者としてのスキルとしても大変有効です。指導力向上の一つの視点として、ぜひ活用してください。

< 終わりに >



取組の結果としての称賛はもちろんですが、取り組んでいる子供への称賛も重要です。変換後の「がんばっているね!!」は、よい結果になかなか結び付きにくい子供たちにとっても、先生が自分を見てくれているという安心感を高め、取り組む意欲を引き出すことにもつながっていくのではないのでしょうか。

福島県教育庁南会津教育事務所 学校教育課

TEL 0241-62-5255 HP <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70510a/>

